

高等学校 芸術科(音楽) 学習指導案

指導者 増井 知世子

- 日時** 平成 29 年 10 月 11 日(水) 第 4 限 11:40~12:30
- 場所** 第 1・第 2 音楽室
- 学年・組** 高等学校 I 年音楽選択クラス イ (3,4) 組 人 (男子 19 人 女子 27 人)
- 題材** 混声合唱を楽しむ
松下 耕作曲 『混声合唱のためのア・カペラエチュード』より
「光が」(工藤直子 作詞)「ゆきがとける」(まど・みちお 作詞)
- 目標**
1. 合唱活動に意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度)
 2. アンサンブルに必要な知識を獲得する。(感受・表現の工夫)
 3. グループ合唱の発表を、アンサンブルの観点から分析的に聴く。
(鑑賞の能力)
 4. 自分のグループの合唱を、自己評価・相互評価を通して高める。(表現の能力)

指導計画 (全 7 時間)

- 第一次 教材楽曲の音取りとアンサンブルに必要な知識の理解 (クラス全体の活動)
2 時間
- 第二次 グループ合唱の練習 2 時間
- 第三次 グループ合唱の発表と相互評価・まとめ 3 時間 (本時 6/7)

授業について

合唱をつくりあげていく段階には大きく 2 つの段階があると授業者は考える。1 つ目は個人の音取り (1 人 1 人が音程やリズムを正確に歌うこと) の段階, 2 つ目はアンサンブルを整えて仕上げていく段階である。

2 つ目の、アンサンブルを整えるとは、各パートの音程やリズムや音色をそろえること、合唱した時のパートバランスをとること、強弱の変化をつけること、歌詞が聴き手に伝わるように言葉を歌うことなどである。本題材である「混声合唱を楽しむ」は、アンサンブルを意識した合唱活動を通して、合唱の深い楽しみを生徒に味わわせることが最終的なねらいである。

本授業クラスでは、1 学期に 2 曲の合唱曲に取り組んだ。歌うことに意欲的で声もよく出るが、互いに聴き合いながら歌うことがまだできていない。今回グループ合唱に取り組むことを通して、相互に聴き合って歌うことや評価し合う力を身につけさせたい。

第一次では、クラス全体で楽曲の音取りやアンサンブルを整えていくための方法についてクラス全体で学習する。第二次ではグループ練習を行う。第三次の前半ではグループ合唱の発表、後半では発表時の相互評価をふまえた洗練・再発表を考えている。

教材である『混声合唱のためのア・カペラエチュード』からの第 1 曲「光が」はカノンである。各声部が互いのメロディに呼応して歌うことを重視したい。第 2 曲「ゆきがとける」は、言葉の響きや 4 声のハーモニーと転調感を大切に歌わせたい。本時は第 1 曲を中心に練習・発表を行う。

題 目 能動的な合唱活動の取り組み ～グループ合唱を通して～

本時の目標

1. グループ合唱の発表を、アンサンブルの観点から分析的に聴く。(鑑賞の能力)
2. 自分のグループの合唱を、自己評価・相互評価を通して高める。(表現の能力)

本時の評価規準（観点／方法）

1. グループ合唱の発表を、アンサンブルの観点から分析的に聴いている。
(鑑賞の能力／意見発表・ワークシート)
2. 自分のグループの合唱を、自己評価・相互評価を通して高めている。
(表現の能力／次時の発表)

本時の学習指導過程 (3限からの続き)

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p><導入></p> <p>・発表準備 (5分)</p> <p>・発表と評価手順の確認 (2分)</p>	<p>・2音で練習のグループは1音に移動し、グループ別にかたまって座る。</p> <p>・手順を確認する。</p>	<p>・楽譜とワークシートと筆記用具を持参させる。1番目に発表のAグループは壇上へ。</p> <p>・聴き手には、グループの発表ごとに評価させる。</p>
<p><展開></p> <p>・グループによる合唱発表 (25分)</p> <p>・発表をふまえた、洗練のための練習 (10分)</p> <p><まとめ></p> <p>・本時のまとめ (8分)</p>	<p>・3つのグループは、ABCの順に合唱発表をする。他のグループはワークシートに気づきを記入し、意見を発表する。</p> <p>・グループに分かれて洗練のための練習と本時のまとめを行う。「ゆきがとける」の練習も行う。</p> <p>・グループ別に本時のまとめを行い、終了する。</p>	<p>・パートリーダーだけでなくランダムに指名し、意見を述べさせる。</p> <p>・Cグループには2音に移動して練習させる。</p> <p>・同室内で違う曲が響くと練習しづらいため、「ゆきがとける」は後半10分を目安に練習させる。</p> <p>・ワークシートをグループ別に回収する。</p>
<p>備考<準備物>楽譜、ワークシート、グループ別の封筒</p>		

＜グループ合唱の取り組み＞ 10月11日

I年 組 番 名前
 グループ (○で囲む) A B C

・本時と来週の内容

- 10月11日 3限 前時の反省をふまえた練習
 4限 中間発表・相互評価
- 10月18日 3限 本発表。「ゆきがとける」も。取り組みのまとめ。
 4限 器楽

・前時（9月27日）の成果

グループ	成果
A	<ul style="list-style-type: none"> ・他パートを聴きながら歌うことができた。 ・少人数なりに声を出すことができた。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・テンポを耳で合わせることもできた。 ・手拍子でテンポを合わせることもできた。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・音取りがだいぶできた。 ・意見を出すことができた。

・課題

グループ	課題	その他気づき
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもつ（音程，声量）（ ） ・拍を保つ（ ）・強弱（ ） ・息の使い方 ・積極性をもつ 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ・バランス（ ） ・音程がぶらさがる（ ） 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもつ（ ）・強弱（ ） ・音程の細部を確実にする（ ） ・ソプラノの伸ばしで息継ぎした後に音程がぶれる。 	

◎よくできている ○まあまあ △がんばろう （自分の班は空欄に）

・本時の練習と発表をふりかえって（班で共有）

実践上の留意点

1. 教材楽曲の選択

今回の授業で『混声合唱のためのア・カペラエチュード』を教材として選択した理由は、ピアノに頼ることなく互いの声を聴きあって歌う力を身につけさせたいと考えたからである。この曲集のなかの「光が」はポリフォニックな曲であり、「ゆきがとける」はホモフォニーである。各曲の指導で重視する点は、「光が」では、冒頭のユニゾン部分を声をそろえて歌い、カノンの部分は各声部が互いに呼応して歌うことであり、「ゆきがとける」では、言葉の響き（特に子音）やハーモニーや転調感を大切に歌うことである。曲調の異なるこの2曲は、生徒たちが楽しみながら互いに聴きあって歌うために適切な曲であると考えられる。

2. 合唱活動におけるリーダーの育成

この取り組みに入るまでに、日頃の合唱においてパートリーダーを育成することが肝要である。リーダーは互選で決める。基本的に生徒の自主性に任せているが、指導者は適宜助言・支援する。

3. グループ分け

各パートで（このクラスの場合は）3つに分かれて、ソプラノ、アルト、テノール、バスから数人ずつ集まって1つのグループを結成した。各パートで3つに分かれることは生徒たちに任せた。その際に留意させたことは、歌声の大きさには個人差があるから、各グループの声の大きさがほぼ均等になるようにすることと、自主的にグループ練習を進めるために、音楽的にもリーダーシップを発揮できそうな人を分散させることである。4つのパートが集まって1つのグループができたなら、リーダーとサブリーダーを決めさせた。

4. アクティブ・ラーニング

これまでにも意識して指導を行ってきたことではあるが、音楽活動のすべてにおいて、常に音楽的思考は行われるべきであり、そうでなければ音楽学習は成立しないと考えている。グループ活動を行うことで、各自がより責任をもって歌うための環境を指導者は提供する。練習方法も自分たちで考えさせた。グループ内でテンポが合わないときには、メトロノームを使うグループ、手拍子で合わせるグループ、リーダーの指揮に合わせるグループなどさまざまであった。また、毎時間の活動を振り返らせ、次時の課題を書かせることで意識付けをさせた。

5. 相互評価による高めあい

中間発表と本発表を行い、グループ相互で評価させた。各グループが前時に書いた課題にもとづいて、練習の成果が出ているか、グループの演奏の良いところはどこかを考えさせ、発表させた。

*以下は、校内研究授業における参観者からの感想である。

ワークシートの書き方が少しわかりづらく、間違っって記入している生徒がいた。意見発表は独自の視点で気づきを述べており、中には厳しい指摘もあってよかった。ああいうのが言える雰囲気はすばらしい。